

## 施策No.27 生涯学習や文化芸術の振興

### 施策の目的

対象	意図
市民	①地域や暮らしの向上に役立つ学習に取り組んでいる ②文化芸術に親しむ

### 現状

本市の生涯学習講座は、平成20年の合併後に統廃合を行い講座数が減少しましたが、平成25年度からは校区社会教育推進員を配置し、校区コミュニティ協議会単位での生涯学習講座等が開設・拡充され、身近な場所で学習に参加できるようになっています。しかし、講座への参加者は全体的に女性の割合が高い状況となっています。

文化芸術に関しては、平成27年度に第30回国民文化祭が鹿児島県で開催され、本市の主催事業として「いさ演劇祭」を実施しました。事業実施に向け「劇団いさ」を立ち上げ団員の募集を行い、2つの演劇の上演と、特別企画として、本市出身の榎木孝明氏の講演会を開催し、総計2,332人の参加がありました。

また、年間を通して、文化会館やふれあいセンターにおいては、文化祭や各種サークル活動など市民主催の文化事業が開催されています。

市民意識調査によると、「日頃から地域や暮らしの向上に役立つ学習に取り組んでいる」と答えた市民の割合は41.9%となっており、平成21年度の40.1%と比較すると、わずかではありますが増加しています。これは、校区コミュニティ協議会単位でも生涯学習講座を開設したことが一因と考えられます。

「文化芸術に親しんでいる」と答えた市民の割合は50.7%となっており、性別で見ると、男性が47.9%、女性が53.2%となっています。また、「文化芸術に親しんでいる」と答えた市民のうち、「ほぼ毎日親しんでいる」、「週に数回程度親しんでいる」、「月に数回程度親しんでいる」と答えた市民の割合が10.3%となっており、親しむ機会が少ないと考えられます。

### 今後の状況変化

- ・ 高齢化に伴い、余暇を利用した生涯学習の場として、地域においても気軽に受講できる生涯学習講座の開設が一層求められることが予想されます。特に、高齢者のいきがい講座等に対するニーズが増加すると予想されます。
- ・ インターネットなどの普及に伴い、家庭において自らのニーズに応じた学習に取り組むようになることが予想されます。
- ・ 施設の老朽化に伴う修繕などが必要となり、維持管理経費の増加が予想されます。

### 課題

- ・ 市民のニーズにあった魅力ある講座を開催する必要があります。
- ・ 大口ふれあいセンターと校区コミュニティ協議会で開催する生涯学習講座との連携を図る必要があります。
- ・ 生涯学習環境の整備（学習・講師の情報、学習機会・場所の提供）を行う必要があります。
- ・ 文化芸術の発表の場を確保する必要があります。
- ・ 文化会館など施設の環境整備を行うとともに、類似施設のあり方について検討する必要があります。
- ・ 文化芸術活動を行っている団体等の活動状況など情報を発信する必要があります。

～施策の方針～

だれもが、いつでもどこでも学ぶことができる環境づくりを行い、自ら学んだことを暮らしやまちづくりに活かす人材を育成します。また、市民が気軽に参加できる文化活動、良質な文化にふれる機会の提供や自主的な文化活動を支援し、文化芸術の振興を図ります。

目的の達成度をあらわす指標とその目標値

成果指標	平成21年度実績値	平成26年度現状値	平成32年度目標値 ( )は成り行き値
	平成27年度目標値		
A 日頃から地域や暮らしの向上に 役立つ学習に取り組んでいる市民 の割合【市民意識調査】	40.1%	41.9%	42.0% (40.0%)
	43.0%		
B 文化芸術に親しんでいる市民の 割合【市民意識調査】	48.1%	50.7%	50.7% (50.7%)
	50.0%		

目標設定の考え方

- A : 日頃から地域や暮らしの向上に役立つ学習に取り組んでいる市民の割合は、平成21年度は40.1%であったが、平成26年度は41.9%と若干増加しています。今後は人口減少が進むとともに、高齢化により自ら学習に取り組む市民は増えないと予想し、平成32年度における成り行き値は、40.0%を見込みます。目標値は、魅力ある市民講座の開設や校区コミュニティ協議会の生涯学習講座の充実に努め、42.0%をめざします。
- B : 文化芸術に親しんでいる市民の割合は、市民主催事業が増えてきたことから、平成21年度の48.1%から、平成26年度は50.7%に増加しています。引き続き、人口減少や高齢化の状況下においても、だれもが親しめるような文化芸術の環境づくりを進め、平成32年度における成り行き値・目標値ともに平成26年度の水準を維持し、50.7%をめざします。

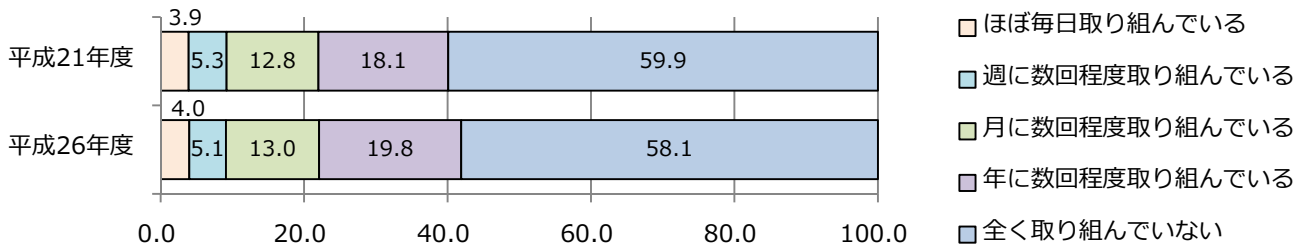
目標達成に向けた基本的な取組み

- ・ 身近な地域で学ぶことができる学習環境づくりを推進します。
- ・ 市民ニーズにあった学習テーマや魅力ある講座を開設し、市民の自ら学ぶ意欲を高めます。
- ・ 学んだことを暮らしやまちづくりに活かす人材を育成するために、生きがいづくりや趣味・習い事だけでなく、地域課題の解決につながるような学習への移行を図ります。
- ・ 身近なところで、文化芸術に触れる機会の提供や、各種団体の活動状況など情報を発信し、文化芸術活動に取り組むきっかけを作ります。
- ・ 文化施設など文化芸術に触れる環境の充実に努めるとともに、類似施設のあり方について検討します。
- ・ 自主的な文化芸術活動を行う市民や団体を支援します。
- ・ 文化芸術団体等に対し市内で開催される各種イベント等の情報を提供し、発表の場を確保します。

協働による市民と行政の役割分担

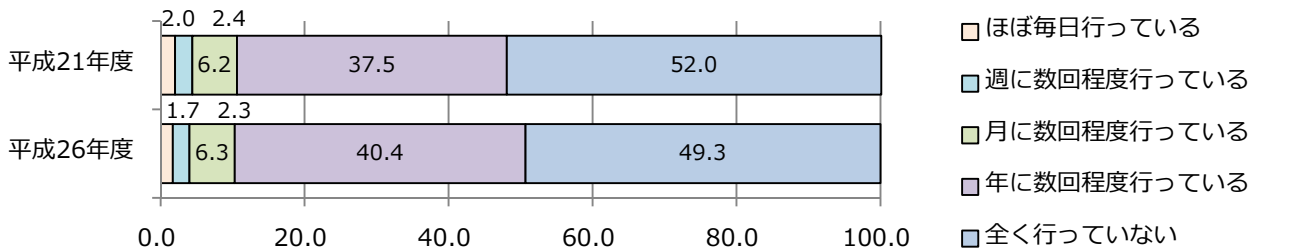
市民（住民、事業所、地域、団体等）の役割	行政の役割
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民は、自ら学ぶ意欲を持ち、学習に取り組み、暮らしに生かします。</li> <li>主体的に文化・芸術に興味を持ち、自ら文化・芸術活動を行います。</li> <li>地域は、地域講座等の学習機会や文化芸術鑑賞会等の機会を設け、住民に参加を促します。</li> <li>文化芸術団体は、自主的な活動、運営、事業を継続して行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地域で学ぶことができる学習環境づくりを推進します。</li> <li>生涯学習の場の提供や、学習内容の充実を図ります。</li> <li>文化協会と連携し、市民が気軽に文化芸術に触れることができる機会を提供します。</li> <li>文化活動を担う人材や文化団体の育成、支援をします。</li> <li>公民館や図書館、文化会館など、市民が利用しやすい環境の整備に努めます。</li> </ul>

【日頃から地域や暮らしの向上に役立つ学習に取り組んでいる市民の割合（％）】



資料：伊佐市（市民意識調査）

【文化芸術に親しんでいる市民の割合（％）】



資料：伊佐市（市民意識調査）



榎木孝明氏講演会



国民文化祭